

# 日蓮宗近畿地区教化研究集会の報告

新 聞 智 照

## 教化研究集会の意義

昭和四十三年より始った「日蓮宗教化研究会議」は、宗門における△現代の伝道▽を考ふるうえで、画期的な試みであった。布教伝道を生命とする教団であるのに、各管区内の布教師の研修会はあっても、全国集会としては所長・三会長・事務局長など△長▽の会議のみで、△伝道教化▽の本質的な掘り下げよりも行政実施の打ち合わせが主であった。その宗門の盲点をついて、「そもそも伝道教化とは何か」「現代の伝道はどうあるべきか」を現場の布教師が自由に参加討議し掘り下げてゆく集会を企画したのは、現宗研のすぐれた発想であった。研究熱心で活動的な地方の教師にとって、それは酸素の欠乏した室内に窓が開かれて清新な空気が流れこんできたような感動でさえあった。

この中央教化研究会議は、すでに教務部の主催に移り、積極的に認められつつ本年第5回目を迎えるが、「中央集

会だけでなく、地方の実情に根ざした地方の教化研を」の声も早くよりあり、一昨年はじめて「東北地区教化研究集会」が秋田県で開かれ、その成果はすでに報告されている通りである。その第2陣として、昨年大阪で「近畿地区教化研究集会」が持たれたのである。

## 近畿教化研究集会はこんな形で行われた

日時 昭和四十六年七月廿六・廿七日（二泊二日）

会場 大阪市 南区雲雷寺

主催 宗務院教務部・現代宗教研究所

後援 近畿宗務区（十二宗務所）

参加 宗務院より五名。近畿地区教師約五十名。

特別講演 「現代の社会と人間」増田光吉甲南大学教授

統一テーマ「近畿地方の都市化の問題と伝道」

討議テーマ1「近畿地方における本宗の歴史と伝道理念

発表(1)「総論的解説」木村勝行

- (2) 「妙見信仰について」高見随秀  
(3) 「京都町衆について」三木浄達

討議 全員

2 寺院づくりと伝道

3 法華信仰のあり方——その反省と問題点

4 教師のあり方——その反省と行学状況

5 文書伝道の振興について

2~5の管区報告と問題提起 各管区代表

討議

全員

## 現代の社会と人間を考える

教化の問題に入る前に、まず、その伝道の対象たる現代の人間と、環境である現代社会の特質を理解するために、増田教授に特別講演をお願いした。教授はわかり易い話方で、現代が歴史の曲り角にきていること、近代市民社会から現代大衆社会へ移るにつれて人間が外部志向型になって来ていること、そこに矛盾も表れ、人間化をめざしながら非人間化している問題がある点など指摘された。

## 近畿における本宗の歴史と伝道理念

ついで、問題を「近畿の本宗」にしぼり、まず現宗研による総論的な解説と、近畿の研究者による各論的なピックアップとして「妙見信仰」と「京都町衆の法華信仰」とを

とりあげた。鎌倉期の本宗が関東寺院に代表されるなら、室町期より近世初頭の伝道弘教の中心は京都にあった。本宗の体質が近世化（市民化・庶民化）されてゆくプロセスは、近畿の宗門史を除いては考えられない——そこにわたくしたちがもう一度、近畿の宗門史を、京都の町衆の圧倒的な法華信仰の歴史を、ふり返ってみる必要がある。それが現代の都市化の中の伝道問題につながるわけである。庶民の法華信仰には守護神信仰がまつわりつき、近畿で代表的な妙見信仰を例証として、守護神信仰にメスを入れてみる必要も感じられたのである。

なお後半の管区発表の際、大阪市の宗門史も紹介されたが、近畿教師による近畿の宗門史研究は、今後いっそう続けられるべきであるし、共同研究または研究交流の組織の必要を痛感させられたのであった。

## 近畿における寺院づくりと伝道

農村問題が中心となった東北地区と異り、近畿では一二時間の交通圏内に、大都市・近郊都市化地域・過疎地域が隣接し合っている。それらの管区の実状が報告されたが過疎地域では住民の労働時間が長く疲れるので、地理上の不便さ、積雪などの難儀さと相俟って寺へ集りにくい。都市では公害などで環境悪化し、交通もかえって不便になった面もあり、街頭布教や行進は困難に、檀家まわりもやり

難くなったところもある。そんな中で布教活動が試みられていることが報告され、信徒講・婦人会・青年会・子供会などを中核とする寺づくりの例があげられた。

○信徒だけでなく地域社会全体に寺を開放し、地域社会と一つになって布教する必要がある。

○核家族化に対しては、若い世帯(分家)にも本尊・先祖牌などまつらせるとよい。信徒草・信徒守札はどうか。

○教師は言葉だけでなく、すべての行動において信徒に信頼され、相談に来るような寺にしなければ。

○農村でも都市でも、教師は雑用や一人幾役もで忙しすぎるので、信徒リーダーを養成したい。統一研修へ期待。などの問題点が話合われた。

### 法華信仰のあり方

現況において、熱心な教師はいちおう信徒の会づくりに成功しているが、そこで壁にぶつかることが訴えられた。その次の段階をどう指導したらよいのかという問題である。

○信徒の基本テキストはないのか。(入門書類種紹介あり  
現在は統一信行「信徒必携」ができています)

○祖書の学習は何を読ませたらよいか。

○唱題信行を徹底してやらせる必要がある。太鼓の叩き方は統一すべきか。

○宗門として用語や見解を統一しないと、教師によって言うことが違ってくる。

○題目を口にしなくても一応教えばよいのか、あくまで唱題させなければ教化にならないか。

○守護神信仰問題を放置してはいけない。本仏信仰を徹底させるべきだ(具体案提起あり)。

○政治問題や公害問題は、伝道・信仰の面から見てもどう対処すればよいのか。

などと、伝道教化の本質に関する事なので、次々と熱っぽい問題提起がされるのであった。

### 布教師のあり方

前項に結びついて、教師がもっと勉強をと反省されたがとりわけ布教師会のあり方が大きく問題になった。

○教師は全員布教師である。その理念に基く布教師会であり、三会制度でなければならぬ。

○教師の勉強の協同化、布教の協同化を考えるべきだ。などと、伝道宗門としての布教組織の再編成が、多くの教師に望まれているようである。

### 文書伝道の振興

文書伝道の重要さと言うまでもないが、個人誌・グループ誌・教団誌などバラバラに出されている。

- それらがある程度有機的に関連づけられたらよい。
- 一人が何もかもやるより、執筆・編集・広布など分担すれば出し易い。協同化が必要だ。
- 新教団は出版収入でまかなっている。日蓮宗新聞も何とかすべきだ。折込みの地方版も考えてほしい。などと語り合われている。

### もっと教化研究集会を

以上のように、第一回目のこととて、まとまった結論は出さなかったが、示唆に富む多くの問題提起と、現況を語り合うことによる相互の刺激を大きな成果として、炎暑の中の一泊二日の教化研究集会は終わった。

「話しあえる機会が大切だ。もっともっと教化研究集会を」

参加者一同の願いである。

